

「鳥居・井上基金」助成実施報告（2024 年度第 1 回, A-研究集会支援）

提出日：2025 年 11 月 25 日

氏名・所属： 浦井暖史（信州大学理学部）
集 会 名： 2024 年度地球化学若手会「春の研究会」
会 場： 信州大学理学部大会議室（長野県松本市）
期 間： 2025 年 3 月 3 日（月）・4 日（火）

開催概要

2023 度の開催以降、学生や若手研究者が中心となり若手会の活動について議論を進め、2024 年度金沢年会において「地球化学若手会」として活動を開始しました。2024 年度の研究会については若手会事務局にて相談した結果、信州大学理学部（松本キャンパス）にて 2 日間の開催が決定しました。若手会会員から「年会では同位体に関する発表が多いが、そもそも同位体について知らないので教えてほしい」という意見があったため、同位体に関するミニ講義（講師も若手会メンバー）を企画しました。また、参加者同士の自己紹介を兼ねて、参加者は原則ポスター発表または口頭発表を必須としました。

実施内容

【1 日目】

- ・ミニ講義：同位体の基礎を学ぼう！
 - ①同位体の測定からわかること（講師：栗原かのこ）
 - ②同位体比計測の基礎（講師：仁木創太）
 - ③基礎から学ぶ生元素同位体比（講師：浦井暖史）
- ・特別講演：海水/鉄マンガン酸化物界面のレアメタル地球化学とその先へ
～全ては若手会から始まった!?～（柏原輝彦先生，海洋研究開発機構）
- ・ポスター発表（24 件）
- ・懇親会（大学生協）

【2 日目】

- ・口頭発表（9 件）
- ・企業説明会（サーモフィッシャーサイエンティフィックジャパングループ様）

ポスター発表を含めて 1 会場で実施した。対面開催を基本としつつ、ZOOM によるオンライン配信も行った。なお、開催期間中に大雪による計画運休が発表されたため、2 日目のスケジュールを午前中のみに変更した。

参加者

現地参加数は40名（学部生14名、修士課程10名、博士課程4名、ポスドク6名、その他6名）懇親会参加者は34名であった。オンライン参加者は数名程度であった。

アンケート結果について

研究会実施後に Google Form を用いてアンケートを実施し、24名の方から回答がありました。ご協力ありがとうございました。以下、簡単に紹介させていただきます。

【開催時期・開催形式】

今回の開催時期については9割以上の方が「良い」「おおむね良い」との回答でした。次回開催時期についても「今年度のままで良い」が9割以上となりました。

開催形式については「1泊2日の通い形式（今回と同様）」が7割を占めたほか、「日帰り」「合宿形式」という意見も1割ほど回答がありました。

【今後の企画】

今回の特別講演や企業説明会に対する満足度は非常に高く（「良い」「おおむね良い」合わせて8割以上）、口頭発表、ポスター発表の時間配分についても好評でした。

来年度の企画の要望として、「同位体比以外の地球化学について」「同位体比を用いた具体的な応用例について」「英語プレゼン、研究費取得、文献調べのコツのようなテクニク的な話」という意見がありました。

総括

今回は地方大での開催のため、どれだけの参加者数になるか不安でしたが、蓋を開けてみると予想を超える人数が集まり、若手会に対する期待を実感しました。今回は新しい試みとして、年会では聞きにくい基礎的な話について、同世代(?)の若手研究者が講師となってミニ講義を行いました。また、企業として唯一参加して頂いたサーモフィッシャー様には、自社の紹介だけでなく、同位体比に関するレクチャーや技術資料の提供など行って頂きました。学生にとっては企業の技術者と関わる良い機会になったと思います。

研究会の前日から松本では雪が降り、2日目には関東方面の特急が計画運休するアクシデントに見舞われましたが、参加者の皆様の協力もあり、何とか無事に全プログラムを終えることができました。次回の名古屋大学でお会いできることを楽しみにしております。

最後に、若手会の活動を再始動するにあたり、金沢年会にて何度かお話する機会を頂きました。その中で本当に多くの方からお声がけ頂き、運営の協力やアドバイスなどのご意見を沢山頂きました。これらの意見は事務局メンバーにも共有しており、今後の活動に生かしたいと強く思っています。また、本会への参加にあたり、所属する研究室などから旅費支援を頂いたと参加者から伺っています。若手会参加に対してサポートして頂き、この場を借りて御礼申し上げます。地球化学会の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご指導のほど、よろしく願いいたします。



ミニ講義



ポスターセッション



懇親会での記念撮影